

6 日本とトルコのかけ橋

月 日 曜日

2010年6月、串本町大島で「日本・トルコ友好120年」の式典が開かれました。

ゆかこさんたちは、トルコ軍かんエルトゥール号のそなんの話を知りました。

1890年（明治23年）9月16日の深夜、日本に来ていたトルコの軍かんエルトゥール号は国へ帰るとちゅう、台風のため、串本・大島のかしのざきおき檜野崎沖でそなんし、ちんぼつしました。乗組員600人あまりのほとんどが海に投げ出され、命を落としました。

このとき、大島の村人たちは、暗やみの中、切り立ったがけ下にたどりついた人のなかから息のある人を必死で探して助け出しました。また、なんとか命を救いたいと冷えきった体を温め、着る物や食べる物、大切にしておいたにわとりまでさし出して世話をしました。

こうして、69人のトルコ人が助かり、国に帰ることができたのです。

式典に出た人の話

1985年（昭和60年）のイラン・イラク戦争の時、わたしたちはイラクにいて、そこから出でずに困りはてていました。そのとき、トルコ航空が、きけんをかえりみず、日本人のために救えん機を出してくれたのです。



なぜトルコの国がわたしたちを助けてくれたのでしょうか。

それは100年以上も前のエルトゥール号のそなんじこの時、串本町民の方々がトルコ人そなん者に対して、けんめいな救助活動を行ったおかげだと思っています。

1 エルトゥール号がそなんしたときのことを読み、考えましょう。

(1) そなんした夜の島の様子を想像してみましょう。

(風、暗さ、そなんした人のいる場所、人の表情や声などを想ぞうして書きましょう)